

## 2020年度大阪医科大学看護学部卒業生へのアンケート調査結果 要約

担当 看護学教育センター

就職支援委員会

### 1. 調査目的

本学における教育内容やサービスの改善のため、卒業生に対し、在学中に受けた教育内容やサービス等が現在の仕事に活かされているかなどについてアンケート調査を行い、教育改善の参考資料として活用する。

### 2. 調査対象

2019年度卒業生（卒後1年目）81名

### 3. 調査期間

2021年1月～2月5日（金）

### 4. 調査方法

マークシート方式の選択回答による無記名自記式質問紙調査を行った。就職先が附属病院の場合は留置法を用い、看護管理者に本学卒業生への配布を依頼し、封筒に入れ看護部に設置された回収箱で個別に回収した。他施設に就職した学生に対しては個別の郵送法を用い、配布および回収した。対象者には本調査目的以外には使用しないこと、個人を特定しない旨、依頼文に明記した。

### 5. 回答数

28名/81名（回収率：34.6%）

（内訳）附属病院 19名/51名中（回収率 37.3%） 他施設 9名/30名（回収率 30.0%）

### 6. 結果の概要

1) 看護実践能力の自己評価が最も高かった項目は「看護実践や自己の成長のために他者の支援を求めること」だった。一方で自己評価が低い項目は「緊急時の対応」「後輩や学生を指導すること」であり卒後1年目の経験を踏まえた結果となったと考えられる。

2) 今後のキャリアアップについては「その他」と回答した割合が高く、分析のため内容の記載欄が必要である。また認定看護師取得希望が2割程度と最も高く、次いで「専門看護師取得」「教育研究者」の希望があった。卒業後の学生がキャリアアップに関する相談ができる場や情報収集できる環境を整えるなど、引き続きサポートを行っていく必要がある。

3) 学部教育での学びでは、概ねディプロマポリシーに即した学びをしていた。しかし「国際的に通用する能力」「地域社会の状況・変化を学ぶ」については今後さらに改善していく必要がある。

4) 進路・就職サポートについては、国家試験対策支援については満足度が最も高かった。

一方で就職サポートやキャリアサポートルームの活用については、今後も学生ニーズを把握しながら検討していく必要がある。

5) 大学に改善や期待することとしては、特に「卒後の教育支援」が高かったことから、卒業生への支援について検討していく必要がある。

6) アンケート回収率が低かったことから、来年度実施する際は回収率向上に向けた方法を検討していく。